



# 小・中一貫カリキュラム(情報教育) 平成29年3月末現在

中学校ブロックのめざす子ども像	○未来を見つめ、自ら学び共に生きる子 ○人や社会とよりよく関わるができる子 ○自分の思いを伝えられる子(コミュニケーション力の育成)
-----------------	--

系統・項目/発達段階	小学校1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中学校1年生	2年生	3年生		
	Ⅰ期(1～5年)基礎基本の徹底					Ⅱ期(6・7年生)連続性を意識した指導		Ⅲ期(8・9年生)進路を見据えた指導			
めざす子どもの姿	情報手段に慣れ親しみ基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できる子						情報モラルを身に付け、情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できる子				
(2) 必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造 情報活用の実践力A	評価基準	1 複数のキーワードを組み合わせて、大量の電子情報の中から必要な情報を検索することができる						1 インターネットやデータベース、各種ファイル内から必要な情報を効果的に検索することができる			
	学習活動				【国】インターネットから情報を収集しまとめる(教上P54～63)						
						【社】食料生産の盛んな地域の人々に手紙で聞いたりインターネットで調べたりする(教上P56～69)					
							【数】情報の信頼性(教P238～239) 【数】統計資料の収集			【数】情報の信頼性(教P204～220)	
					【理】学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う(教P46～51) 【理】学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う(教P58～67) 【理】学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う(教P122～123)	【理】テレビや新聞、インターネットを活用して天気の変化を調べる(教P56～63) 【理】テレビや新聞、インターネットを活用して天気の変化を調べる(教P82～97)	【理】インターネット上のコンテンツを活用し土地のつくりと変化を調べる(教P114～138) 【理】学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う(教P176～185)	【理】調査・探究学習 【理】火山活動や地震のシミュレーション学習	【理】調査・探究学習	【理】調査・探究学習	
							【図】インターネット上の画像を検索しお気に入りの美術作品を紹介する(教上P28～31)				
							【家】購入する物の情報を収集する(教P62～67) 【家】衣食住に関する情報を収集する(教P99)	【家】身近な消費生活と環境について情報の招集と整理(教P212～244)			
								【保体】ルールや運動の仕方(実技教P5～31)			
						【外】ネットワークや教育機器などを活用し外国語に慣れ親しむ(教P40)	【外】ネットワークや教育機器などを活用し外国語に慣れ親しむ(教P38～39)	【外】教材コンテンツを活用する学習活動	【外】教材コンテンツを活用する学習活動	【外】教材コンテンツを活用する学習活動	
				《総》昔の人が使っていた道具をインターネットで調べたりする		《総》日本各地の年末年始の特徴ある料理を調べたりする	《総》戦争についての新聞作りのために、テーマに沿ってインターネットで調べたりする		《総》「追究」調べ学習P.P.を用いたプレゼンテーション		
評価基準	2 見学や観察、実験等で集めたデータを表やグラフに整理・処理し、考察できる						2 観察、実験等、あるいは通信ネットワークから集めたデータをグラフに表し、比較したり傾向や規則性を調べたり予想したりできる				
学習活動			【算】データを目的に応じてグラフ化し、どのグラフが適切か検討する(教下p64～105)	【算】収集したデータを表を用いて整理し、正確に分類する(教上P6～18)	【算】収集したデータを表を用いて整理し、正確に分類する(教下P8, 教下P54～55, 教下P66～71)	【算】収集したデータを表を用いて整理し、正確に分類する(教下P167～175)	【数】資料の整理と傾向の読み取り(教P224～241)		【数】資料の整理と傾向の読み取り(教P204～220)		
			【理】観察記録や実験データを表やグラフにまとめデータの整理をする(教p34～40, 教p142～150)	【理】観察記録や実験データを表やグラフにまとめデータの整理をする(教P20～22, 教P84～108, 教P146～148, 教P152～154)	【理】観察記録や実験データを表やグラフにまとめデータの整理をする(教P125, 教P142～144, 教P161)		【理】観察・実験のデータ処理	【理】観察・実験のデータ処理	【理】観察・実験のデータ処理		
評価基準	3 インタビューやアンケート等を行って収集した情報を整理し、要点をまとめることができる						3 観察や実験、あるいは通信ネットワークから集めたデータを集計し、基本的な統計処理を行うことで比較したり傾向や規則性を調べたり予想したりできる				
学習活動					【社】資料や専門家、インターネットなどから学習に関する情報を収集する(教上P20～37)	【社】資料や専門家、インターネットなどから学習に関する情報を収集する(教上P134～135)	【社】学習に関する情報の収集	【社】学習に関する情報の収集	【社】学習に関する情報の収集		
					【算】収集したデータを表を用いて整理し、正確に分類する(教上P6～18)	【算】収集したデータを表を用いて整理し、正確に分類する(教下P8, 教下P54～55, 教下P66～71)	【数】資料の整理と傾向の読み取り(教P224～241)		【数】資料の整理と傾向の読み取り(教P204～220)		
							【理】観察・実験のデータ処理	【理】観察・実験のデータ処理	【理】観察・実験のデータ処理		
			【生】学習したことや成長したことを保護者や異学年の人と交流する(教下P86～95)								
評価基準	4 文字、写真、表、グラフ等を組み合わせて新聞やカードを作成し、調べたことや自分の意見を表現できる						4 文字、写真、表、グラフ等を組み合わせてレポートやポスターを作成し、分かったことや自分の主張を表現できる				
学習活動								【国】プレゼンテーション(教P42)			
						【図】レイアウトや色遣いを工夫してポスターを制作する(教上P42～43)			【美】造形や美術の備きについてのプレゼンテーション(教2・3P64～69)		
			《総》名刺やカレンダーを作ることができる(ジャストスマイル)					《総》「追究」調べ学習P.P.を用いたプレゼンテーション			
評価基準	5 音声や動画など多様なメディアを複合し、より効果的な電子ファイルに編集できる						5 音声や動画など多様なメディアを複合し、より効果的な電子ファイルに編集できる				
学習活動							【保体】運動の記録による振り返り(実技教P69)				
								【音】自然音の収集(教2・3下P15) 【音】コンピュータを用いた作曲やプレゼン(教2・3下P32～33)			

# 小・中一貫カリキュラム(情報教育) 平成29年3月末現在

中学校ブロックのめざす子ども像	○未来を見つめ、自ら学び共に生きる子 ○人や社会とよりよく関わるができる子 ○自分の思いを伝えられる子(コミュニケーション力の育成)
-----------------	--

系統・項目/発達段階	小学校1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中学校1年生	2年生	3年生	
	Ⅰ期(1~5年)基礎基本の徹底					Ⅱ期(6・7年生)連続性を意識した指導		Ⅲ期(8・9年生)進路を見据えた指導		
めざす子どもの姿	情報手段に慣れ親しみ基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できる子						情報モラルを身に付け、情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できる子			
情報活用の実践力A (3)受け手の状況などを踏まえた発信・伝達	評価基準	1 伝える相手を意識して、自分の考えや気持ちを文書や手紙で伝えることができる					1 メーリングリストやアドレス帳、ファイル添付など電子メールの機能を効果的に活用する方法を知り、経験する			
	学習活動						【外】インターネットの情報を収集したり海外の人とメールで交流したりする(教P18~21)	【外】電子メールやテレビ会議システム等を活用した海外との交流(教1年P104~105)	【外】電子メールやテレビ会議システム等を活用した海外との交流(教2年P106~107)	【数】遠隔地の生徒間の伝え合い(教P204~220)
	評価基準	2 インターネットを介して自分の考えや気持ちを誤解のない表現で伝えることができる					2 電子メールや掲示板、動画通信などを用いて、自分の考えや気持ちを正確に伝えたり、相手の気持ちを読み取ったりしてコミュニケーションができる			
	学習活動						【社】Webページやメールによる情報発信の学習	【社】情報発信による学習	【社】情報発信による学習	【社】情報発信による学習
	学習活動						【外】インターネットの情報を収集したり海外の人とメールで交流したりする(教P38~40)	【外】電子メールやテレビ会議システム等を活用した海外との交流(教1年P104~105)	【外】電子メールやテレビ会議システム等を活用した海外との交流(教2年P106~107)	【数】遠隔地の生徒間の伝え合い(教P204~220)
	評価基準	3 調べたことをWebページにまとめたり、相手にわかりやすくプレゼンテーション(発表)したりできる					3 文字の大きさや色遣い、画像の配置などレイアウトを工夫してわかりやすいWebページ、プレゼンテーション資料、アニメーションなどを作成し、自分の考えを発信できる			
	学習活動						【国】自分の考えをまとめる活動	【国】自分の考えをまとめる活動	【国】自分の考えをまとめる活動	【国】自分の考えをまとめる活動
	学習活動						【理】学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う(教P17, P45, P101, P129)	【理】学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う(教P65)	【理】学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う(教P73)	
	学習活動	【生】自分たちの通学路の安全について調べる(教上P8~9)	【生】自分たちの町にはどのような施設や人がいるのか探検する(教下P22~51)	【生】学習したことや成長したことを保護者や異学年の人と交流する(教下P86~95)						
	学習活動						【美】造形や美術の働きについてのプレゼンテーション(教2・3P64~69)			
学習活動						【技】メディアを複合したデジタル作品の制作(教P218~223, 226~231)				
学習活動						【総】「追究」調べ学習P.P.を用いたプレゼンテーション				
評価基準	4 課題や目的に応じて、小学校で学んだ情報手段を適切に活用して発信(発表)内容の評価や改善ができる					4 課題や目的に応じて、中学校で学んだ情報手段を適切に活用して発信(発表)内容の評価や改善ができる				
学習活動						【理】学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う(教P17, P45, P101, P129)	【理】学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う(教P65)	【理】学習したことをプレゼンテーションで発表や説明し合う(教P73)		
学習活動									【技】完成した作品の評価と改善(教P225, 226~231)	

# 小・中一貫カリキュラム(情報教育) 平成29年3月末現在

中学校ブロックのめざす子ども像	○未来を見つめ、自ら学び共に生きる子 ○人や社会とよりよく関わることができる子 ○自分の思いを伝えられる子(コミュニケーション力の育成)
-----------------	--

系統・項目/発達段階	小学校1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中学校1年生	2年生	3年生		
	Ⅰ期(1～5年)基礎基本の徹底					Ⅱ期(6・7年生)連続性を意識した指導		Ⅲ期(8・9年生)進路を見据えた指導			
めざす子どもの姿	情報手段に慣れ親しみ基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できる子						情報モラルを身に付け、情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できる子				
(1) 情報活用 の基礎となる 情報手段の 特性の理解	評価基準	1 情報手段を利用して、情報を集めたりまとめる方法と、その特性を知る					1 コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組みを理解できる				
	学習活動			【社】県内の特色ある地域に関してインターネットで資料を収集する(教上P30～31)	【社】県内の特色ある地域に関してインターネットで資料を収集する(教上P20～36)				【技】基本的な情報処理の仕組みやデジタル化の方法(教P196～199) 【技】情報の処理の単位(教P201)		
	評価基準	2 電子メールやWebページなどの情報手段を利用して、情報を伝える方法と、その特性を知る					2 情報通信ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組みを理解できる				
	学習活動			【社】インターネットのWeb検索で情報を集める(教上P108～P109)	【社】インターネットのWeb検索で情報を集める(教上P110～P131)	【社】インターネットのWeb検索で情報を集める(教上P24～P25) 【社】インターネットのWeb検索で情報を集める(教下P40～P59)			【技】情報通信ネットワークの構成(教P202～209)		
	評価基準	3 電子メールや掲示板などの情報手段を利用して、情報を交流する方法と、その特性を知る					3 デジタル化の方法について知り、その特性や利点を理解できる				
	学習活動								【技】基本的な情報処理の仕組みやデジタル化の方法(教P196～199)		
	評価基準						4 コンピュータを利用した計測・制御の基本的な仕組みを知ることができる				
	学習活動								11. 【技】計測・制御システムの理解(教P236～237)		
	(2) 情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解	評価基準	1 自分の活動や学習の成果をデジタル情報に記録し、評価できる					1 メディアの特徴と利用方法を知り、制作品の設計に活かすことができる			
		学習活動							【美】映像メディアの複合(教1年P44～45)		
		評価基準	2 情報の信憑性を確かめる方法を知り、課題解決に利用できる					2 信憑性を確かめる方法を知り、いくつかの方法で自分の扱う情報の信憑性を確かめることができる			
		学習活動							【数】情報の信頼性(教P238～239)		
評価基準		3 収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして情報の整理を行う方法を知る					3 情報処理の手順を考え、簡単なプログラムが作成できる				
学習活動									【技】情報処理の手順の理解とプログラムの作成(教P238～249)		
評価基準						4 情報を伝えるメディアの特性や、発信者から受信者までの情報伝達の過程を理解し、それを元に情報の真偽や質を吟味できる					
学習活動							【国】プレゼンテーション(教P42)				
学習活動							【社】情報の検索	【社】情報の検索	【社】情報の検索		
学習活動							【技】完成した作品の評価と改善(教P225, 226～231)				



# 小・中一貫カリキュラム(情報教育) 平成29年3月末現在

中学校ブロックの めざす子ども像	○未来を見つめ、自ら学び共に生きる子 ○人や社会とよりよく関わるができる子 ○自分の思いを伝えられる子(コミュニケーション力の育成)
---------------------	--

系統・項目/発達段階	小学校1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中学校1年生	2年生	3年生	
	Ⅰ期(1~5年)基礎基本の徹底					Ⅱ期(6・7年生)連続性を意識した指導		Ⅲ期(8・9年生)進路を見据えた指導		
めざす子どもの姿	情報手段に慣れ親しみ基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できる子						情報モラルを身に付け、情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できる子			
情報社会に参画する態度C  (3)望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度	活動			【道】個人情報を保護することの大切さに気づく(教P172)		【道】個人情報を保護することの大切さに気づく(教P186)				
	評価基準	6 健康に配慮して情報機器を使うことができる					6 情報機器の使用による健康とのかかわりについて考え、情報機器の利用時間や頻度を自己管理できる			
	学習活動							【保体】情報機器の長時間使用(保健教P125) 【保体】健康を害する有害情報(保健教P94~109)	【保体】情報機器の長時間使用(保健教P125) 【保体】健康を害する有害情報(保健教P94~109)	
								【技】情報機器使用に関する健康への配慮		
	評価基準	1 協力し合ってネットワークを使うことができる					1 情報を活用することの意義を理解し、積極的に情報共有をはかることができる			
	学習活動									
	評価基準	2 情報を発信する側に求められる役割や責任の大きさ、情報を受け取る側の正しい判断の必要性について考えることができる					2 メディアから収集した情報には発信者の意図や背景があることを知り、批判的にとらえることができる			
	学習活動							【国】プレゼンテーション(教P42)		
								【社】マスメディアの働きや国民生活への影響(教P82~83)		
	評価基準						3 情報に関する技術を適切に評価し、活用する能力と態度を身に付けることができる			
学習活動							【技】情報技術の社会的影響力と評価(教P234~235)			

※小学校の外国語活動の「教」とは、「Hi, Friends!」を表しています。小・中学校の道徳の「教」とは、「私たちの道徳」を表しています。